



本日、オリンピックの聖火リレーが駅・役場周辺で行われ「海の子プラス」も応援演奏に出かけます

運動会付け足し

同じ教室に赤組と白組がいる意味

これまでは、2学級ある学年は、どちらかの学級が赤でどちらかが白というように決めていましたが今年度は、全学級を赤白に分けました。

赤白が学級ごとであれば、例えば勝った学級は「やったー！」と終わることができますが、負けた子も同じ教室にいるとなるとそうも行きません。実際に昨年度の6年生や3年生、1年生がそうでした。

「そういう中で、子ども達はどうかえどんな行動をするのか。そこにまた“子ども達が学ぶチャンス（教育的価値）”があるのではないか。」という先生方の反省に立っての今回の試みでした。



戦いを終えた各陣地では、中心になってくれた応援団や6年生に下級生からエールが。



教室では・・・

同じクラスの中に、勝った白組も負けた赤組もどちらもいます。でも自慢をしたり負け惜しみを言ったりする子は一人もいませんでした。帰りの会では、どちらも互いのがんばりを認め合い全力でがんばった自分達に拍手を送りました。（2年生学年通信より）

紅白が分かれた学級では、勝ち負けでどんよりしているかと思いきや1組も2組もやり切った感が・・・（中略）・・・すっきりさわやかでみんないい表情で迎えた帰りの会でした。

（3年生学年通信より）

振り返れば今年も笑顔、そして感謝



何より笑顔がたくさんでした。



今年も子どもの笑顔が多いことに気が付きました。おうちの方も気づいてくださっています。ありがとうございます。



友達と楽しそうに競技・応援している姿を見られて、普段の学校生活も充実しているのだと感ずることができた。

応援席でみんなでダンスをしている姿をみて、全体で盛り上がっている感じがステキだった。

うれしかったことは、1・2年生の時にお世話になった先生から、「頑張ったね」と声をかけてもらったことだったようで、学年が上がり先生が変わったとしても声をかけてもらえること見守ってくれていることに感謝です。

子どもたちの競技を見つつ、裏の方に目を向けると先生方をはじめ、ピンクジャンパーの方々たくさんのサポートがあることを改めて実感した。こうして行事ができていることを子どもにも伝え感謝の気持ちを育てていきたい。

全校児童のみなさん！

これまで紹介したように、みなさんは、おうちの方をはじめたくさんの方々に見まもられ応援していただいています。ありがたいことですね。

1学期後半の取り組み、それぞれに

運動会が終わってホッと一息。そして、気持ちも新たに、1学期の後半に向かったの取り組みがそれぞれに始まっています。

児童会では

普段の生活を改善しようと「あいさつ運動」に取り組めます。春は「入学した1年生をあたたく迎える」という意味もありましたが、今回は、「**あいさつを向上させたい!**」「**あいさつはもっとよくなるのでは?**」という意味が込められています。「あいさつボランティア」の募集も行うそうです。いつか触れた“たくさんの人を巻き込む”作戦のようです。

今年度の児童会マスコット「つぶまめ」も活躍しそうです。

「ウニウニ」から「つぶまめ」へ

～児童会マスコットの引継ぎ～

児童会では「児童会マスコット」が毎年あります。子ども達から募集され、昨年度は「ウニウニ」、今年度は「つぶまめ」。「つぶまめ」は、豆の種のことでしょうか。土にまかれて、やがて芽を出し、そして花を咲かせるのだそうです。子ども達はよく考えるものだと思って感心しています。

マリンホールに児童会スローガンが張り替えられたと同時に、マスコットも代替わりしました。それぞれの取り組みで「つぶまめ」が芽を出し花を咲かせ、さらに1年で、どれだけの花が見られるのか、楽しみにしたいです。



体育委員会では

木曜日の「なわとびグランプリ」に向けて取り組みが行われています。昨年度はコロナの影響で行えなかったものです。縦割り班が2班合同チームをつくって縄跳びに挑みます。回数への挑戦もありますが、「**小さい子が何回でもいいから跳べればいいなあ**」と願いながら練習が行われています。

学習は?

「**林業の学習**」に出かける学年、「**海洋の学習**（「ひろの学」）」に本格的に取り組む始める学年、社会科や生活科の学習で探検に出かける学年など、学習面でも活動的な取り組みが行われ出しました。

縦割り班そうじ

運動会を区切りに、学級で分担した掃除から縦割り班での掃除に切り替わりました。学級で掃除の仕方を練習して縦割りでの班長を中心にした掃除になります。年長の子が下の子に教え世話をしますからトラブルもあるかもしれません。自分達で考え行動する機会ととらえて、様子を見ながら指導して行きます。

「読み聞かせ」募集

学年ごとの「読み聞かせ」の募集を始めました。コロナが心配されて昨年は見送られましたが、子どももおうちの方もそして地域の方も感染予防対策をしていただいていますし、少人数の方の来校ですので、お願いすることにしました。種市小学校では、いろいろな場面でおうちに方や地域の方にお世話になって子どもを育てています。そんな“宝物のような”つながりを大切にしていきたいと考えています。

昨年できなかったこと、新しく考え出されたこと、いろいろなことが始まり、また新たな方向に学校が動いています。

海洋教育「ひろの学」

海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の観点で目を向け、自分達が生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜く子どもを育もうと始まった学習です。「ひろの学」と名付け、文部科学省から特別な“教科”として認められ、洋野町をあげて各校で取り組まれています。

この「ひろの学」は、故中野小学校校長 榎内典明先生の教育実践と構想が出发点になっていて、榎内先生は城内小中学校出身で私達の先輩でもあります。